

地域活性化という「遊び」

43

京都市
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

三度目の正直 石の上にも三年。
1年目手をつくすも見向きもされず
2年目一度捕まえるも数日で逃げられたり
捕まえてしばらく飼うも外敵から被害を受けたり
悔しい思いを沢山しながら迎えた3



苦勞して捕まえた蜂のことが可愛くてしょうがないらしく時間を忘れて見とれてしまうこともしばしば。

年目
ついに夢が叶いました。
ザルからポウルにポタポタと落ちる雫は黄金の輝き
子供たちにはきつとそう見えたこと
でしょう。

数年前

日本ミツバチを飼ってみたいと言い出して
いつものごとく
思いついたらすぐ行動。
丸太をくりぬいたり
建築で余った材木を使って
どんどん巣箱を作って
山に設置していきますが
待てど暮らせど肝心の入居者は全く
現れません。

日本ミツバチの捕獲を通して学んだ
「狭い集落でも広い視野」

日本ミツバチはなかなか難しい生き物で

巣箱の材料が新材であったり樹種によっては匂いを嫌い

寄り付きもしません。

ついつい気持ちが行先するのが子供という生き物。

気持ちは痛いほどわかるし努力も認めてやりたいのですが

いくら頑張っても

深く調べもしないでただ作っているのでは

やはりうまくいくはずはありません。

たどえびギナーズラックで

捕獲に成功したとしても

巣の出入り口が数ミリ大きかったり設置場所の湿度が高かったりすると

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを運営するも食材を種から作ってみたいと、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨセフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。

スズメバチやスムシなどの外敵が侵入してしまいますつまり

今回取り組んだ養蜂というものは細かいところまできちんとやらないとダメなわけですよ

幼い頃は

物事まず始めることが優先で

細かいことは後回し。

そうやっていっているなことに

どんどんチャレンジして

それなりに成功してきたわけですが

養蜂はそれが裏目に出るかなりの苦戦を強いられました。

細かいところまできっちりというのは

ある意味彼らの苦手分野かもしれません。

2年目の終わりごろ

巣箱に1群入ったのですがメンテナンスが容易な別の巣箱に移



蜜は絞ると濁るので
ゆっくり時間をかけて
滴り落ちるのを待ちます。



黄金色の蜂蜜。
最近は写真撮影にも興味があり
自分たちで撮影もします。



夢にまでみた蜂蜜トースト。
いただきます。



まだ専用の服など持っていないので時々刺されたりします。

したところ突然失踪。
時期が悪かったのか
移す方法が間違っていたのか
まだまだ詰めが甘かったようです。
そして3年目
少しは勉強したのか
なんと3群の捕獲に成功。
そのうちの1群は
スムシの被害を受けるも
他の2群はその後逃亡もせず順調に
巣も大きくなっていくようです。
群の捕獲や設置場所のコツも
自分たちなりに掴んだようで
来年は巣箱の数を増やすと
宣言しています。

捕獲に成功したことはとても喜ばしいことですが

何より嬉しかったのは
物事きっちりやることの大切さを学
んだことでしょうか。
加えて良いなと思ったのは

子供たちが日々ミツバチを観察し
本で調べたりして
詳しくなってくると
ミツバチの餌つまり蜜源というもの
を意識するようになったこと。
花の蜜というと
春先の桜にはじまり
梅雨の紫陽花や野山に咲く色々な美
しい花ばかり思い浮かべますが
実はそれだけではありません。
春から夏にかけて何度刈ってもしつ
こく生えてきては
農家を困らせることで有名な悪者セ
イタカアワダチソウ。
実はその悪者が
晩秋花も少なくなった頃に
蜜のたくさん詰まった黄色い花を
すごくたくさん
咲かせてくれるので
悪者どころかミツバチにとっては越
冬のための

貴重な蜜源となります。
他にも森が暗くなるなどと
落葉広葉樹に比べ
いろんなところで悪者扱いされ
伐採されることもある常緑広葉樹。
それらが咲かせる花もまたミツバチ
にとって年間通して貴重な蜜源。
何か一つのことを
ただ一つの理由だけで
人間が勝手に
悪者と決めてしまうのは
とても馬鹿げたことだと思えます。
一部分を見て安易に決めつけてしま
った思い込みを一旦排除して
幅広い視点で
物事を見つめ直すことの重要性を
子供が遊びで始めた取り組みから
教えてもらうことになりました。
狭い集落に暮らしながらも
広い視野を持つというのは
十分可能です。